



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 18 R6. 12. 15

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

厳しい鍛錬の日々を日常に ―青木宣親選手（ヤクルトスワローズ）引退に思う―

令和 6 年も暮れようとしている。今年もいろいろなことがあった。野球界では大谷翔平選手の活躍が光った。翻って日本のプロ野球では青木宣親選手の引退に注目したい。

青木選手は早稲田大学を卒業して決して高評価とは言えないドラフト 4 位でヤクルトに入団した。その後メジャーリーグでもプレーしたが、最終的には古巣のヤクルトで今年バットをおいた。

身長 175 ㍎、体重 80 ㍏。プロとして決して恵まれた体格ではなく、アマチュア時代そこまで騒がれた選手でもなかった。

その人が日米通算 2000 安打を達成したのがプロ 14 年目、メジャー時代の 2017 年だった。日本では 2 度の年間 200 安打を記録。最終的には 2730 安打。イチロー、張本勲、野村克也、王貞治に次ぐ数字だ。生涯打率.313 は歴代 6 位。



名球会オフィシャルサイト
<https://meikyukai.net/members/batter/norichika-aoki/>

ではどうしてここまでの成績を残すことができたのか。2つのエピソードを紹介したい。

一つは 1 年目を 2 軍で過ごした青木選手が当時の若松勉監督に当てた年賀状の文面。「今年は頑張りますからレギュラーで使ってください」。今どきなら当たり前の売込みかもしれないが、若松監督は驚きながらも感心したそう。「線は細かったけれどギラギラしていた」。この前向きな姿勢がのちの活躍につながっている。

二つ目は引退試合。現役最後の打撃練習で打球の角度など微調整を加えたという。そのことについて青木選手は「気づいたら微調整していた」と語っている。より良いものを求め繰り返してきた試行錯誤の動きが勝手に出たというわけだ。

名を成す選手は皆、人が見れば逃げたしたくなるような厳しい鍛錬の日々を何気ない日常としているだろう。そうした日常がその人を造っている。

プロの世界の特別な人たちと思うかもしれない。しかし、たとえ“頂上”に登ることができなくても、厳しい鍛錬の日々を重ねようとする行為そのものが尊いことだと思う。「なりたい自分」ではなく「ありたい自分」(TAKE OFF press No. 12) を日々積み重ねた結果、振り返ってみると“砂山”(TAKE OFF press No. 16) になっていたという典型的な話だと感じた。

友よ叡智を磨くべし！ ―オーストラリア SNS 禁止に注視―

オーストラリア議会が 16 歳未満の SNS 利用を禁止する法案を可決した。世界初の試みだという。どの国も SNS の抱える課題は同じだろう。現地では賛成の声が 77%である一方、不安視する声もあるようだ。本校でも、あるいは家庭でも一度議論してみてもいい。いずれにせよ今後注視していきたい。



NHK: <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241128/k10014653111000.html>

先日、武雄市内の小中高の教員と警察や地域の方々などが一堂に会し、生活安全や交通に関して情報交換をする会議に出席した。

そこであらためて知ったことは「中学校ではスマホ所持を禁止している」という事実だ。そもそも SNS の使用やスマホの所持は個人の問題だが「国レベルで SNS を禁じる」「市レベルでスマホ所持を禁じる」という現実を見ると“痛し痒し”という悩ましさを感じる。

今年の 18 歳が生まれたのは 2006 年。旧 Twitter が登場した年だ。初代 iPhone が登場したのは翌 07 年。今の高校生の大半はデジタルネイティブであり、かつ SNS ネイティブだ。人とどのようにコミュニケーションをとるかという方法はもちろん、価値観そのものが年賀状を大事にしていた私の世代とは全く違っているのだろう。おそらく世代ごとに違う景色を見ている。

SNS は手放せない。でも中毒、いじめや闇バイトなどの危険は否応なく迫ってくる。まさに未知の課題、正解の分からない問いにどう応えればいいのか。

“友よ叡智を磨くべし”。皆の叡智を結集させてこの難しい問いにみんなで立ち向かおう。

より速く！ より正確に！ デジタル技術の活用力を披露

12 月 8 日、佐賀市文化会館にて県高校生 DI 選手権大会が開催された。

デジタルイノベーション (DI) を担う人材を目指してプログラミングやデータサイエンスを学ぶ取組の成果発表の場でもある。本校でも 1 年生の十数名の有志が 6 月から週 1 回程度、大学や工業高等専門学校、企業の専門家から直接指導を受けてきた。

今回の大会では保護者を含め多くの観客が見守る中、専用ソフトを用いた半導体回路設計やプログラミングの速さを競いあった。本校関係の結果は以下のとおり。入賞おめでとう！



部門	入賞者
CIRCUIT DESIGNER でタイムアタック！	[2位] 正司浩大 [3位] 小林穂高
インバーター回路設計コンテスト ～スピード編～	[3位] 正司浩大
プログラミングコンテスト ～スピード編～	[2位] 前田康希 [3位] 原優理子
AI学習コンテスト	[準優勝] 武雄Lab 相森音也・宮原理・小柳佑太・栗原義経 (有工)・井手翼

【当面の主な予定 (12 月後半)】

- 16 日 (月) 育ちあい講座 (1 年) 17 日も
- 17 日 (火) エイズ予防講演会 (1 年)
- 18 日 (水) 三者面談 (全学年) 23 日まで
- 24 日 (火) 終業式
- 25 日 (水) 冬季補習
- 26・27・1/6・7 日まで (全学年)
- 28 日 (土) 北予備ファイナル (3 年) 29 日まで @佐賀大学

インフルエンザが流行りつつあるようです。
うがい・手洗い・マスク・手指の消毒・換気。
そして何より栄養と休養です！



(閑人閑話)ー12月8日付けの佐賀新聞に白石アスリートクラブの堤王宏さんの文章が『ろんだん佐賀』に掲載されていた。堤さんは73生まれて武雄高校出身の方。二人の旧友との再会のことが書かれていた。▼そのうちのお一人が谷口礼史さん。国土交通省の官僚で知床遊覧船事故の対策委員会事務局長を務められた方だ。社会的な責任の大きな職務。本校でご講演いただいたので記憶にあるだろう。▼その谷口さんが高校入学初日最初に声をかけてくれたという。谷口さんはきつと昔から快活で正義感のある人だったのだろう。10代の多感な時期を共に過ごした中に今の仕事につながる淵源を見た気がする」と綴られていた。▼きつとみんなも20年後、30年後に振り返った時、その時の仕事ぶりの種子のようなもの、いわゆる“淵源”を高校や大学など若い時代の自分や友達に認めることになるだろう。▼その種子を撒くためにも今しばらくは何でも見てやろう、なんでもやってやろうという気持ちでいてほしい。打席数を稼がないという球は見えない。人間どこにスイッチがあるか分からないから。▼冬休みは短いけれど思索にふけるにはいい季節。来年どんな種をまくか。本でも読んで考えるいいタイミング。みなさんよいお年を。(弓口)